

大震災・復興ニュース（第146報）

平成26年3月20日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 大震災・復興ニュースの名称変更について

・大震災・復興ニュースは、東日本大震災による被害からの復旧や復興などの情報を地域の皆様に速やかに伝えるため、平成23年4月22日から、概ね週1回（平成26年1月からは月2回）県内水産物の放射能測定結果や漁港工事の進捗状況、漁業や養殖業の再開情報、水産関連施設の復旧状況などの情報を伝えてきました。

宮城県の震災復興計画では、平成23～25年度を、被災者支援を中心に生活基盤や公共施設を復旧させる「復旧期」、平成26～29年度を、直接の被災者だけでなく、震災の影響により生活・事業等に支障を来している方々への支援を更に充実していく「再生期」として取り組むこととしており、本ニュースにつきましても、県計画に合わせ次回から名称を「水産業再生ニュース」と改めることとしましたので、ご承知下さい。

2 宮城県内の水産物の放射能測定結果について

- 測定年月日 平成26年3月5日～平成26年3月18日
- 測定分析機関 いであ（株）、（一財）日本食品分析センター、東北緑化環境保全（株）、（公財）海洋生物環境研究所、（株）静環検査センター、（一財）宮城県公衆衛生協会、（株）総合水研究所。

3 測定結果

宮城県内で平成26年3月2日から平成26年3月13日に採取したマガキ（養殖）、ワカメ（養殖）、ノリ（養殖）などの水産物104検体について、放射能を測定した結果、すべての検査品目について、基準値を下回り、安全性に問題のないことが確認されました。

3 管内の復興に向けた動き

○2月の塩竈市魚市場の水揚げ状況

・地方卸売市場塩竈市魚市場の平成26年2月の水揚げは、数量350トン、金額255,269千円でした。前年同期比では、鮪延縄漁船などによる水揚げが減少したことから、数量で50トン、金額では17,735千円の減少となりました。

塩竈市魚市場水揚げ状況（平成26年1～2月累計）

（トン、千円）

区 分	平成26年		平成25年		対 比	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
1～2月の累計	1,763	920,761	1,087	631,988	162%	146%
（うち 2月）	（350）	（255,269）	（400）	（273,004）	（88%）	（94%）

○塩竈市魚市場B棟新築工事の安全祈願祭が行われました

・東日本大震災で被災した塩竈市魚市場を復旧するため、塩竈市では、高度衛生管理型の新しい塩竈魚市場を建設することとしています。新魚市場は、現魚市場の西側から中央にかけて建設される管理事務所を含むA棟、東側に建設されるB棟とこれらの補完施設であるC棟の3施設や駐車場などを整備することとしており、この度、B棟の着工に至ったことから、3月19日（水）、B棟工事現場で安全祈願祭が行われました。安全祈願祭では神事後、塩竈市 佐藤市長の挨拶、水産庁漁港漁場整備部 高吉計画課長、宮城県仙台地方振興事務所 薩川所長から工事の安全と塩竈市の復興を祈念する祝辞が述べられました。

今回、高度衛生管理型の新魚市場の建設が開始されることにより、主力魚種である生鮮マグロ類をはじめとした水産物流通の拠点として、塩竈の復興が一層進むことが期待されます。



安全祈願祭の様子



B棟建設場所

○養殖ワカメ・コンブのモニタリング調査を行っています

・昨年11月末から松島湾内で養殖されているワカメとコンブのモニタリング調査を行っています。

松島湾の養殖ワカメ・コンブは、昨年度、一昨年度と2年続けて不作となっており、その原因として低水温の影響や養殖密度が高いことなどが推測されました。このモニタリング調査は、その対策として、湾内で生産を行っている宮城県漁協塩釜市第一支所及び塩釜市漁協の漁業者と県が協力し、定期的に漁場環境とワカメ・コンブの生育状況の確認を行っているものです。

また、両漁協では漁場に設置する養殖施設の台数を昨年度より1～2割少なくしています。

その結果、現在のところ順調に生育しており、ワカメの収穫も始まり豊漁が期待されます。このモニタリング調査の詳細な結果はとりまとめの後、両漁協の生産者に報告し、来年度以降の生産に活かしていく予定です。



平成26年11月調査開始時のワカメ



平成26年3月14日調査時（2m以上に成長）